

2026年4月13日
株式会社竹中工務店

大阪・関西万博に提供した「森になる建築」の移設が完了 竹中研修所内「清和台の森」にて「森になる」フェーズを迎えます

竹中工務店（社長：丁野成人）は、2025年日本国際博覧会（以下、大阪・関西万博）の会期中（2025年4月13日から10月13日まで）に万博会場敷地内「大地の広場」に提供した「森になる建築」を、兵庫県川西市にある竹中研修所内「清和台の森」へ移設しました。



移設完了後（近景）



移設完了後（遠景）

竹中工務店公式 YouTube チャンネル [「森になる建築／Forestry Architecture」](#)

本建築物は、最先端の3Dプリント技術と手づくりの技を融合させ、環境に配慮した新しい建築です。構造体には生分解性樹脂を採用し、外装には一般市民の方にご参加いただいたワークショップで作られた「シーズペーパー」（植物の種をすきこんだ和紙）を使用しています。さらに、伝統工芸の職人や福祉施設の方によって作られた和紙も組み合わせるなど、多様な人々の参加によって完成し、使用後に廃棄物とするのではなく、自然に還る建築を目指しました。

直径4.65m、高さ2.95mの建築物2棟で構成され、会期中は来場者の休憩施設として活用され、46万人以上の方が訪れました。

万博会場での役割を終えた後、2026年3月上旬に、当社の「ものづくり」と「森づくり」の伝承の場である竹中研修所内「清和台の森」へ移送し、周辺の森林環境の整備を行い、4月13日に移設が完了しました。今後は森の中の自然環境により分解が進む様子を継続的に観察していくこととなります。

当社は今後も、環境との調和と社会との共創を目指した革新的な建築技術の開発に取り組んでいきます。

「森になる建築」の概要

建築地	万博会場敷地内「大地の広場」(3Dプリンター出力、和紙仕上げ) 竹中研修所内「清和台の森」(移設)
設計施工	竹中工務店
工事期間	2024年8月～2025年3月(3Dプリンター出力、和紙仕上げ) 2026年3月～2026年4月(移設)
大きさ	直径4.65m、高さ2.95m
棟数	2棟
構造	酢酸セルロース造
主要仕上材	(外装) 紙、植物の種子・苗 (内装) 酢酸セルロース表し (床) 三和土